

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学 校 名 静 岡 市 立 清 沢 こ ど も 園
(※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
教員養成大学 専修学校、各種学校
特別支援学校
その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 4 2 1 - 1 3 0 6

静岡県静岡市葵区昼居渡66番地の2

E-mail kiyosawakodomo@city.shizuoka.lg.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 7 名 女子 7 名 合計 14 名
幼児・児童・生徒の年齢 3 歳～ 5 歳

2. 報告期間

平成 2 9 年 4 月～平成 3 0 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本園の教育目標は「心豊かで たくましい子」である。自然の不思議さ、美しさ、おもしろさに触れ、心揺さぶられる体験が感性を豊かにする。さらに、予想もつかない自然とのかかわりや動植物の命を感じる体験がたくましい子どもを育てると考える。

ESDを「四季の変化と命のつながりを実感できる保育」と捉え、ESDの実践を通して、地域の自然・文化・人とのかかわりを通し、地域への親しみや愛着の気持ちを育てることを目標とした。

このような幼児期の体験が、将来、地域の教育資源を大切にしようという気持ちにつながると考えている。

具体的には、①命のつながりを実感できる教育活動 ②子どもが主体的に地域の自然、文化、人とのかかわる教育活動を行った。

① 命のつながりを実感できる教育活動

○「命のつながり（命の継承と食物連鎖）」を、子どもが感じとり、自然の中で命が育まれる尊さや、体験を通して感じた命を頂く重みを日々の食育につなげる。

山女魚釣り場で、釣りを体験する。釣った魚は、地域の方が子どもの目の前で針からはずし、内臓を出し炭で焼いてくださった。元気よく動いていた魚がだんだん動かなくなっていく様子に子どもたちは、命をいただく重みを実感する。「山女魚が自分たちの元気のパワーになる。というつぶやきから食物連鎖を感じていることがわかる。最後に「大きくなってね。」と、山女魚の稚魚を放流することで自然の中で命が育まれていくことを願っていく。また、このことは魚が住む地域のきれいな川を守るといふ、関心が自然環境へも広がっていく。

① 子どもが主体的に地域の自然、文化、人とのかかわる教育活動

○子どもたちが園生活を創っていく過程で、地域の人や自然、文化に必要感をもって主体的に取り入れていくことが、地域への親しみや愛着を育むと考える。そのために、3年間の教育課程を見通しながら、地域とのかかわりを意図的に取り入れている。

年長児を中心にチャボの飼育している。春になるとチャボが卵を産み「どうやって食べようか。」という相談が始まる。ある日年長がよもぎホットケーキを作ろうということになった。よもぎ摘みに出かけ、地域の商店に必要な材料を買い物に行った。また、分からないことを、地域の方に質問に行く姿も見られた。このように、年長になると子どもたちが自分たちの生活の中で必要感を感じて、地域にかかわっていく様子が見られる。



① だんだん弱っていくね



① 大きくなって帰ってきてね



② 地域の商店に自分たち
で必要な材料を買い物に



② よもぎのいい香り

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(日常の遊びや生活の中で)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

「よもぎだんご」	さとうわきこ	福音館
「しろくまちゃんのほっとけーき」	わかやまけん	こぐま社
「かわ」	かこさとし	福音館
「はるのずかん」		学研

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200~300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<p>園のランドデザインで本園のユネスコスクールの理念を中心に位置付けている。</p> <p>全体的計画の中で、ユネスコスクールとして大切にしている園外保育・食育・飼育栽培などの年間計画を作成している。</p> <p>年間で計画したものを、各学年の月の指導計画の中でどのように行っていくのか具体的に計画している。</p>
--

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

年度当初、全職員でグランドデザインを共通理解する。その際、本園がユネスコスクールであり、ESDの理念から、どのような活動をどのように大切にしているかを説明していく。
各学年の月の指導計画を職員全員で話し合い、活動に取り組むための環境づくりや各学年のかかわり方などを話し合っている。

※チェック事項 1-4 に対応

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

内部
園の評価指標の中に、ユネスコスクールの理念に関する項目をあげ中間、年度末に職員が評価を行う。

外部
保護者アンケートの項目にユネスコスクールにかかわる活動についての質問項目をつくる
学校評議員会でユネスコスクールにかかわる活動内容について評価をしていただく

成果
内部、外部共に、ユネスコスクールの理念を実践していくための「地域の自然・文化・人を活かした教育保育」は、本園の特色であり、子どもが育つ場であると捉えていることが分かった。

課題
職員が入れ替わる中で、「地域の自然・文化・人を活かした教育保育」の価値をどう伝え、3年間を見通し、質の高いつながりと積み重ねを子どもたちに体験させていくことができるのか。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

清沢自治会、清沢小学校、清沢里の駅、清沢生涯学習交流館などの協力

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクールに認定された、静岡市の他の4園のこども園との
情報交換

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

本園のような山間地のこども園は、地域の子どもの数が少なくなり、園児の減少が著しい。子どもが少なくなる中、活動も限られたものになりがちだが、ユネスコスクールの活動が本園の特色となり、園内だけでなく地域の様々な人とのかかわりを通し、豊かな保育が展開できている。

また、そのような保育に興味をもち、学区外からの入園や未就園児の会への参加が増えている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

四季の変化と命を実感できる保育
～地域の自然・文化・人とのかかわりを活かした保育～

四季を通して命を感じる

- ・年間を通した チャボや亀の飼育
- ・あゆのつかみどり ・山女魚つり
- ・自然の恵みをいただく
よもぎ たけのこ 野イチゴ 桑の実 ブルーベリー

四季を通して地域の自然の中で遊ぶ

- ・地域を散策しながら、1年をかけて伝説の天狗を探す
- ・川で遊び
- ・山の探検

地域の人とのかかわり

- ・商店 ・高齢者 ・小学生